

INFORMATION

コロナ禍で農業景況DIは大幅に悪化 ～ 令和3年1月農業景況調査より ～

日本政策金融公庫・農林水産事業は令和3年3月15日、スーパーL資金又は農業改良資金の融資先のうち18,060先を対象に実施した「農業景況調査」（令和3年1月調査）の結果を公表した。今回の調査では、定例の景況調査に加えて、新型コロナウイルス感染症拡大による影響についても調査した。ここでは、本調査の概要を紹介する。

1. 農業の景況等について

(1) 景況DI (図表1 参照)

DI (Diffusion Index = 動向指数) とは、前年と比較

して「良くなった(良くなる)」とする回答者の割合(%)から、「悪くなった(悪くなる)」とする回答者の割合(%)を差し引いた値で、上向き(プラス値)、下向き(マイナス値)といった方向感を捉える指標である。

令和2年通年の農業全体の景況DI(▲24.9)は前年実績(6.0)から大幅に悪化(30.9ポイント低下)し、マイナス値になった。令和3年通年の見通しは、令和2年実績から更に7.5ポイント低下し、▲32.4とマイナス幅が拡大する見通しとなった。

酪農は、北海道、都府県ともに、平成27年からの5年間にわたりプラス値を持続したが、令和2年にマイ

図表1 景況DIの推移(抜粋)

| | 平成24年 実績 | 25年 実績 | 26年 実績 | 27年 実績 | 28年 実績 | 29年 実績 | 30年 実績 | 令和元年 実績 | 2年 実績 | 3年 見通し |
|-------|-------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|------------|----------|-----------|
| 農業全体 | 13.2 | ▲1.4 | ▲33.7 | 16.8 | 20.0 | 21.2 | ▲11.1 | 6.0 | ▲24.9 | ▲32.4 |
| 北海道稲作 | 43.9 | ▲4.2 | ▲67.2 | 20.1 | ▲4.9 | 39.7 | ▲51.8 | 26.5 | ▲3.6 | ▲61.6 |
| 都府県稲作 | 36.2 | ▲10.2 | ▲71.0 | ▲3.8 | 23.6 | 10.3 | ▲10.7 | 11.4 | ▲33.4 | ▲43.8 |
| 畑作 | 1.6 | ▲27.6 | ▲5.3 | 35.2 | ▲17.6 | 34.8 | ▲22.7 | 31.6 | ▲32.3 | ▲34.1 |
| 露地野菜 | 6.7 | 15.1 | ▲15.7 | 14.3 | 14.7 | 7.5 | ▲3.4 | ▲9.3 | ▲32.8 | ▲35.2 |
| 北海道酪農 | ▲2.2 | ▲9.4 | ▲4.1 | 55.9 | 57.6 | 44.8 | 25.0 | 30.3 | ▲19.3 | ▲19.3 |
| 都府県酪農 | 0.0 | ▲23.8 | ▲30.9 | 29.3 | 52.2 | 12.6 | 2.5 | 8.4 | ▲16.4 | ▲3.4 |
| 採卵鶏 | ▲40.6 | 43.9 | 28.6 | 71.0 | 40.8 | 32.7 | ▲61.2 | ▲38.9 | ▲43.8 | ▲29.1 |
| ブロイラー | ▲1.3 | ▲22.4 | 10.4 | 51.9 | 27.4 | 55.3 | 15.9 | 14.7 | 6.4 | ▲8.9 |
| 養豚 | ▲38.1 | 43.6 | 67.5 | 48.8 | 26.2 | 59.4 | ▲27.2 | ▲4.1 | 44.3 | ▲2.0 |
| 肉用牛 | 8.3 | 20.5 | ▲1.2 | 48.5 | 50.3 | 17.5 | 4.7 | ▲0.2 | ▲43.9 | ▲12.4 |

出典：「農業景況調査(令和3年1月)」(日本政策金融公庫 農林水産事業本部)、以下同じ。

図表2 収支DIの推移(抜粋)

| | 平成24年 | 25年 | 26年 | 27年 | 28年 | 29年 | 30年 | 令和元年 | 2年 |
|-------|-------|-------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|
| 農業全体 | 12.5 | ▲7.0 | ▲39.7 | 14.2 | 16.7 | 14.7 | ▲20.1 | ▲1.5 | ▲27.6 |
| 北海道稲作 | 44.7 | ▲14.4 | ▲72.4 | 21.3 | ▲13.7 | 43.0 | ▲63.3 | 17.9 | ▲1.8 |
| 都府県稲作 | 37.8 | ▲22.0 | ▲76.7 | ▲6.5 | 23.8 | 2.2 | ▲18.8 | 4.5 | ▲38.5 |
| 北海道酪農 | ▲3.4 | ▲10.5 | ▲12.6 | 55.5 | 57.0 | 36.8 | 7.4 | 17.6 | ▲24.3 |
| 都府県酪農 | ▲2.6 | ▲25.4 | ▲34.3 | 25.4 | 48.4 | 1.7 | ▲3.3 | ▲3.6 | ▲14.5 |
| 養豚 | ▲38.1 | 44.9 | 69.9 | 50.2 | 19.1 | 57.9 | ▲34.9 | ▲7.8 | 47.0 |
| 肉用牛 | 9.9 | 20.2 | ▲7.6 | 50.8 | 48.6 | 7.0 | ▲4.1 | ▲7.3 | ▲48.4 |

図表3 資金繰りDIの推移(抜粋)

| | 平成24年 | 25年 | 26年 | 27年 | 28年 | 29年 | 30年 | 令和元年 | 2年 |
|-------|-------|-------|-------|-------|------|------|-------|------|-------|
| 農業全体 | 9.8 | ▲0.9 | ▲29.2 | 7.6 | 15.5 | 15.5 | ▲4.7 | 0.4 | ▲16.3 |
| 北海道稲作 | 31.8 | ▲0.7 | ▲52.4 | 8.2 | ▲2.5 | 23.8 | ▲30.4 | 7.9 | ▲1.5 |
| 都府県稲作 | 29.2 | ▲6.7 | ▲59.2 | ▲10.7 | 13.5 | 7.3 | ▲5.9 | 4.9 | ▲22.0 |
| 北海道酪農 | ▲3.1 | ▲5.0 | ▲6.3 | 39.2 | 45.7 | 36.3 | 21.1 | 24.9 | ▲12.0 |
| 都府県酪農 | 1.8 | ▲14.4 | ▲26.2 | 26.5 | 42.1 | 16.4 | 5.4 | 1.6 | ▲6.7 |
| 養豚 | ▲26.8 | 37.1 | 59.3 | 45.0 | 32.4 | 55.6 | ▲7.1 | 2.3 | 37.7 |
| 肉用牛 | 8.1 | 9.7 | ▲6.1 | 27.8 | 34.6 | 16.9 | 8.7 | 0.7 | ▲25.6 |

図表4 設備投資予定ありの比率の推移(抜粋)

| | 平成24年 | 25年 | 26年 | 27年 | 28年 | 29年 | 30年 | 令和元年 | 2年 | 3年 |
|-------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 農業全体 | 37.3 | 42.0 | 39.5 | 34.5 | 43.6 | 51.8 | 46.6 | 44.3 | 44.3 | 46.1 |
| 北海道稲作 | 45.3 | 48.8 | 39.7 | 26.1 | 44.1 | 48.6 | 45.2 | 41.0 | 43.2 | 42.3 |
| 都府県稲作 | 45.7 | 50.9 | 46.1 | 32.5 | 45.1 | 53.5 | 49.8 | 47.0 | 49.1 | 51.2 |
| 北海道酪農 | 24.7 | 32.0 | 27.8 | 36.4 | 42.0 | 53.7 | 46.1 | 44.3 | 43.7 | 40.8 |
| 都府県酪農 | 34.0 | 34.3 | 35.9 | 42.8 | 38.3 | 58.0 | 49.4 | 48.4 | 42.2 | 45.1 |
| 養豚 | 38.4 | 36.2 | 49.3 | 55.9 | 54.4 | 62.1 | 58.0 | 45.5 | 50.2 | 54.0 |
| 肉用牛 | 30.8 | 37.8 | 36.5 | 41.1 | 49.9 | 56.8 | 46.2 | 45.1 | 48.5 | 42.0 |

注) 設備投資予定ありの比率は、調査実施当年中の設備投資を「予定している」の割合。

ナス値に転じた。また、3年通年の見通しもマイナス値となった。

(2) 収支DI (図表2参照)

令和2年通年の収支DIは前年から26.1ポイント低下し、▲27.6となった。

北海道酪農は平成27年から5年間にわたりプラス値を維持していたが、令和2年に前年から41.9ポイント低下し、マイナス値に転じた。都府県酪農は3年連続のマイナス値であり、令和2年は▲14.5とマイナス幅が拡大した。

(3) 資金繰りDI (図表3参照)

令和2年の農業全体の資金繰りDI (▲16.3) は、前年(0.4)から16.7ポイント低下し、マイナス値となった。

酪農は、北海道、都府県ともに、平成27年からの5年間にわたりプラス値を持続したが、令和2年にマイナス値に転じた。とくに北海道酪農は低下幅が大きく、前年(24.9)から36.9ポイント低下し、マイナス値(▲12.0)となった。

(4) 設備投資予定ありの比率 (図表4参照)

令和3年の農業全体の「設備投資予定あり」の比率(46.1%)は、前年(44.3%)から1.8ポイント上昇した。

北海道酪農の「設備投資予定あり」の比率は、平成29年(53.7%)を境に低下傾向に転じて令和3年には40.8%まで低下した。一方、都府県酪農も同様の傾向にあったが、令和3年には増加に転じて45.1%になった。

(5) 規模拡大の阻害要因 (図表5参照)

今後の経営方針について「生産規模の拡大」と回答した調査先に、その阻害要因を聞いたところ、北海道酪農では「設備・機械の調達」(56.3%)がもっとも多く、続いて「労働力の確保」(48.3%)、「農地・農場の

確保」(40.2%)、「資金調達」(40.2%)、「経済環境が不透明」(27.6%)が多かった。

都府県酪農における生産規模拡大の阻害要因としては、「労働力の確保」(55.4%)がもっとも多く、続いて「農地・農場の確保」(46.7%)、「設備・機械の調達」(45.7%)、「資金調達」(45.7%)、「経済環境が不透明」(16.3%)の順であった。

2. 新型コロナウイルス感染症拡大による影響について

(1) 売上高への影響 (図表6参照)

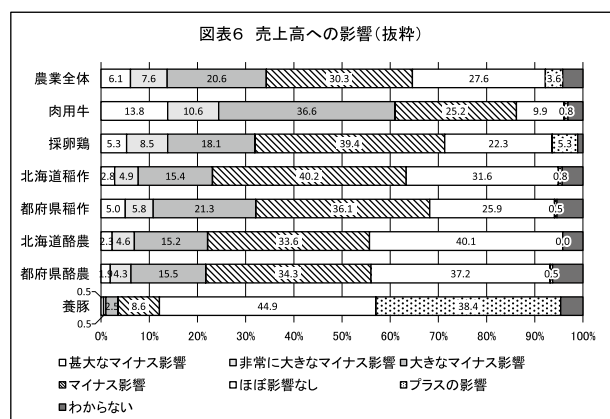
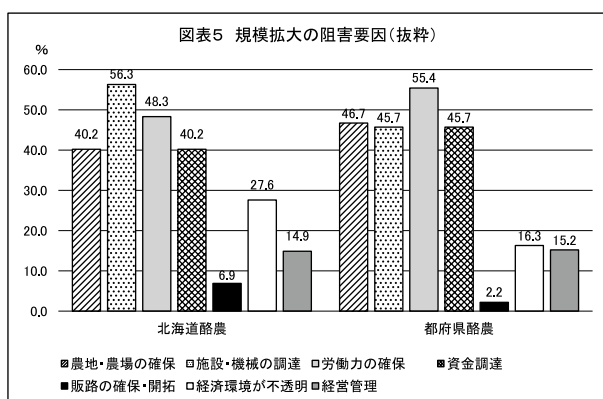
農業全体において、「新型コロナウイルス感染症拡大により、売上高にマイナスの影響があるとする回答」(甚大なマイナス影響、非常に大きなマイナス影響、大きなマイナス影響、マイナス影響)した割合は64.6%となった。

畜産の中で、マイナス影響があるとする回答がもっとも多かったのは肉用牛(86.2%)で、もっとも少なかったのは養豚(12.1%)であった。養豚では「プラスの影響が出ている」とする割合が38.4%で、他業種に比べて著しく高かった。酪農で売上高にマイナスの影響があるとする割合は、北海道で55.7%、都府県で56.0%と同水準であった。

(2) 支援策の活用 (図表7参照)

畜産では、肉用牛を除くすべての業種で、支援策を「特に活用していない」の割合が最も高くなった。肉用牛では「コロナ無利子融資」(36.0%)、「中小企業持続化給付金」(35.5%)、「経営継続補助金」(32.4%)を活用した割合が特に高かった。

北海道酪農では「経営継続補助金」(15.5%)、「感染防止対策」(14.5%)、「その他の補助金・施策」(12.6%)、都府県酪農では「経営継続補助金」(17.8%)、「感染防止対策」(12.4%)、「コロナ無利子融資」(12.4%)を活用した割合が比較的高かった。



図表7 支援策の活用 (抜粋)

| | 経営継続補助金 | 中小企業持続化給付金 | 感染防止対策 | コロナ無利子融資 | 販路拡大 | 労働力確保 | その他の補助金・施策 | 特に活用していない |
|-------|---------|------------|--------|----------|------|-------|------------|-----------|
| 北海道稲作 | 46.9 | 16.8 | 16.4 | 1.0 | 1.3 | 3.1 | 13.3 | 36.7 |
| 都府県稲作 | 35.0 | 22.2 | 13.8 | 5.9 | 3.6 | 2.5 | 15.2 | 39.0 |
| 北海道酪農 | 15.5 | 3.4 | 14.5 | 6.3 | 1.0 | 3.9 | 12.6 | 61.8 |
| 都府県酪農 | 17.8 | 5.9 | 12.4 | 12.4 | 0.0 | 2.5 | 7.9 | 59.9 |
| 養豚 | 11.9 | 6.2 | 15.5 | 8.8 | 0.5 | 3.6 | 8.8 | 61.1 |
| 肉用牛 | 32.4 | 35.5 | 16.2 | 36.0 | 1.3 | 2.8 | 21.8 | 19.2 |

単位：%